

# 日本生命保険相互会社 南館ビル

Nippon Life Insurance Company Minamikan Building

No. 03-041-2016作成

改修・保存  
事務所

発注者	日本生命保険相互会社	カテゴリー	A. 環境配慮デザイン B. 省エネ・省CO2技術 C. 各種制度活用 D. 評価技術/FB			
設計・監理	株式会社大林組 OBAYASHI CORPORATION	E. リニューアル F. 長寿命化	G. 建物基本性能確保 H. 生産・施工との連携			
施工	株式会社大林組	I. 周辺・地域への配慮 J. 生物多様性 K. その他				

## 街並み・歴史の継承と発展

### 風格のある街並みの創出

当建物は、「日本生命」が本社を置く大阪「淀屋橋」地区において、大阪のメインストリートである「御堂筋」沿いに位置しています。

70年以上存在感（歴史・伝統・文化の象徴）を放つ「本館ビル」のファサードを継承した「彫の深い石積み表情」により、時代に流されない風格のあるビルへ刷新しました。

外壁改修をすることで、日本生命本店ビル群（本館・南館・東館・新南館）としての街並み形成、御堂筋沿いの景観整備、さらに、本館・南館の御堂筋側のライトアップによる、夜の景観形成にも貢献しています。

### 次世代を見据えた段階的改修

生命保険会社の中核機能を有するビルであり、地震に対する安全性をさらに高め、最新の執務環境を提供するために「段階的な改修工事」を行いました。

- ・1959年：竣工。第1回BCS賞受賞
- ・2003年：耐震診断・耐震補強を実施
- ・2012年：今回改修工事に伴う耐震性能の確認。改修着工
- ・2015年：落下リスクのある外壁タイルを乾式石張りに改修、および内部全面改修竣工
- ・2016年：耐震改修促進法による耐震診断報告（大阪市提出）



御堂筋側のメインファサード（改修後）



御堂筋側のメインファサード（改修前）



歴史ある本館と並ぶ南館（改修後）

### 建物データ

所在地	大阪府大阪市
竣工年	2015年（改修）
敷地面積	1,711㎡
延床面積	16,685㎡
構造	RC造
階数	地下3階、地上9階、塔屋3階

### 安全性の確保

受変電設備・非常用発電機設備を地下階から地上階に配置することにより、浸水時の電源を確保し、非常用発電機の燃料備蓄量を増量（72時間連続運転可能）することにより、災害時の電源も確保しました。

自主的既存不適格対応として、事務室内を自然排煙、廊下・エレベーターホールを機械排煙とし、地下階にスプリンクラー設備を新設しました。

昇降機（全号機）を2重ブレーキ化にて安全性を向上させました。

### 執務環境の向上

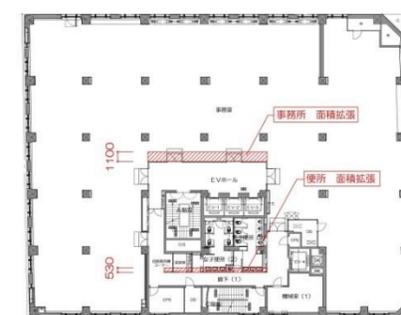
エレベーターホールの一部を事務室化、廊下の一部を便所・湯沸室化し、事務室内にOAフロアを新設した上で、既存天井高さを確保することにより、執務空間の機能的バリューアップを実現しました。

### 建物を利用しながら行う改修工事の工夫

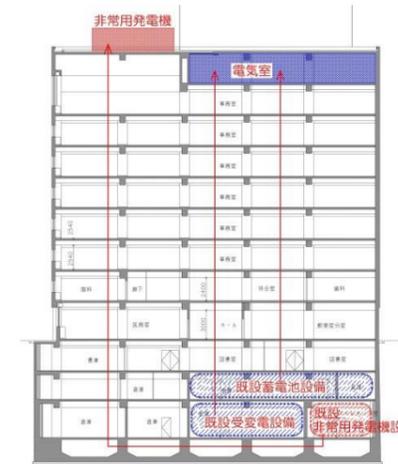
既存において3カ所あった内部階段の1つを設備の縦ルートとして確保することにより、建物を利用しながら行う改修工事を実現しました。



設備縦シャフトの確保



執務環境の向上



浸水対策

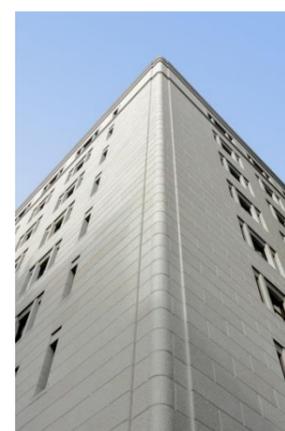


排煙の確保

### ファサードの継承と新たな展開

「壁面プロポーション」「石積みディテール」をテーマに、隣接する「本館ビル」と互いに存在感を引立て合う佇まいを目指しました。

- （1）壁面プロポーション
  - ・両サイドの窓を3/4閉鎖し壁面量を調整
  - ・本館ビルの3層構成を継承
  - ・本館の縦長ポツ窓を意識し、整形ポツ窓部にピラー（石柱）を配置
- （2）石積みディテール
  - ・多様な表情を産み出す石表面加工の採用
  - ・陰影のある輪郭を産み出す線型の採用



コーナー部分の見上げ



御堂筋に面する正面玄関



ロートアイアン

### 主要な採用技術（CASBEE準拠）

- |         |                                  |
|---------|----------------------------------|
| Q2. 2.  | 耐用性・信頼性（耐震性の向上）                  |
| Q3. 2.  | まちなみ・景観への配慮（地域性のある素材・歴史性の継承）     |
| LR1. 1. | 建物外皮の熱負荷制御（高性能ガラス）               |
| LR1. 3. | 設備システムの高効率化（ERRの向上・LED照明・センサー制御） |
| LR2. 1. | 水資源保護（節水型機器）                     |
| LR2. 2. | 非再生性資源の使用量削減（既存躯体の継続使用）          |